総務産業常任委員会会議録

１　日　　時　　令和５年８月９日（水）
　　１０時１７分開会　　１４時１５分閉会

２　会議場所　　役場３階　第１委員会室・新得町

３　出席議員　　委員長：中河つる子　副委員長：田村幸紀
　　委　員：只野敏彦、鈴木孝寿、中島里司（欠席）、深沼達生
　　議　長：山下清美

４　事 務 局　　事務局長：大尾　智、次長兼総務係長：川口二郎

５　説 明 員　　新得町議会議会運営委員長：村田　博、事務局長補佐：長濱　清、
　　新得町地域戦略室地域戦略係長：佐藤直人、同主事：武田春樹

６　議　　件
（１）所管事務調査について
　・地域おこし協力隊の現状について
（２）まとめ
（３）その他

７　会 議 録　　別紙のとおり

総務産業常任委員会　【開会１０：１７　閉会１４：１５】　令和５年８月９日

【開会　１０：１７】

（１）所管事務調査について
　・地域おこし協力隊の現状について

新得町議会議会運営委員長：（村田　博）： 歓迎挨拶

委員長（中河つる子）：大変お忙しい中、清水町総務産業常任委員会の所管事務調査で地域おこし協力隊の現状について、色々とお話しを伺いたいと思うので、よろしくお願いする。

地域戦略室地域戦略係長：（佐藤直人）：資料に基づき説明

只野委員：他の町よりも先進的だと思っているが、差し支えなければ企業名を教えていただければ、隣町なので非常にわかりやすいのだが。

佐藤係長：地鶏の関係は町中のS/uno、エゾシカはドリームヒルトムラウシ、林業については西十勝森林組合、アウトドアはTAC、観光農園は拓殖バス、国民宿舎は東大雪荘、高齢者支援は高齢者施設のひろね、ホースセラピーはウエスタンビレッジサホロ、新得discoverプロデューサーは駅前の相馬商店、まちづくり事業推進員は商工会が出資している新得タウンマネジメントである。

只野委員：以前、上田精肉店でもいたことがあったと思うが。

佐藤係長：以前はいたが、上田精肉店の方は任期満了されている。

只野委員：上田精肉店はどういう感じでマッチングしたのか、事業が単に精肉を売るだけではだめだと思うが。

佐藤係長：色々な切り口があって、もちろん販路拡大とか新しいパッケージの組み合わせで特産品開発とか、あまり使われない部位の商品開発などで活動いただいた。３年間で全ての成果がでるかというとすぐに成果が上がるものではないが、これをきっかけに次という思いで、各企業が盛り上がってもらえればという思いでやっている。

只野委員：募集する時に、ある程度具体的にこういう職種であるということを書かれて募集されているのか。

佐藤係長：そのとおり、こういう目的でこういう情報発信をしてもらう、こういうイベントの企画をしてもらうとかを、わりと程よく細かく、あまり曖昧にするとわからないし、あまり細かくしすぎると聞いている聞いてないというようなことで、そこが難

しいがそれなりに具体的なイメージで募集をしている。

只野委員：定住するとか残ってやっていくということは、サポートが非常に大事だと思う。具体的なサポートについて、協力隊員がいる時にこういうサポートをしていて、終わったあとにもこういうサポートをしているというものを教えていただきたい。

佐藤係長：なかなか最近、コロナを言い訳にできない部分があるが、協力隊で任意のグループがあり、交流会的なものを持ったり、年に１回は面談をして、今や将来について聞き取りを行っている。それと、月に１回は必ず調子や相談の声かけを行っている。サポートの充実は課題だと思っている。

只野委員：農林課や商工観光課に行く地域おこし協力隊と、民間の企業に行く地域おこし協力隊の割合はどれくらいか。

佐藤係長：いわゆる行政系というのはいない。今の12人100％が勤務先は各事業所になっている。過去においても２、３人である。

田村委員：まちづくり分野の方の採用が、清水町は移住定住推進委員や宣伝協力員ということで、行政の中に入って業務の中身と責任の度合いというのが、職員の補助的な感じで働いている方が多いが、新得discoverプロデューサー、まちづくり事業推進員も行政の外でやっていると思うが、この方の責任度合いは誰かの下について、組織の中の下の方で働くのか、組織の上の方で指揮を執るのか、どこまでの立場なのかを教えていただきたい。

佐藤係長：そこだけで言えば職員の下ということになるのかもしれないが、例えば新得discoverプロデューサーでいうと、企業の中の立ち位置というのは、ここの分野に関しては協力隊がやりたいことを企画してもらって、社長がどう受け止めてということでやっているので、まず魅力を見つけてもらって何ができるか考えてという形での立ち位置になる。まちづくりについても難しい分野だというのもあったので、任用の時に採用決まってから役場と企業と協力隊で十分ミーティングをして、何をどこまでどうやって、何を期待しているというのをやったので、責任度合いということでは、いい意味で自由な発想でやれていると担当では考えている。

田村委員：途中退任や定住を増やすためには採用する時が大事なのだと思い、自由度を持たせてお任せするという形で成功する場合と失敗する場合もあると思うし、具体的な事でこれがやりたいという事で来る方であればうまくいくという事もあるので、具体的なものと自由度を持たすというものの採用の仕方というのはとても参考になると思う。清水町は子育て推進員の募集はしているが、高齢者支援員の説明の中で特別な視点の中でという話があったが、町として今年度こんな成果をあげてもらえたらいいなという具体的なものは描いているのかどうか。

佐藤係長：ぼんやりとでも何かというのはあまりない。ちょっと違う切り口で、広い感じでというところ。

鈴木委員：まず、メニューを作るのがいつぐらいから始まって、募集かけるのはいつくらいなのか、状況によって企業がやりたいと言ったら５月から始まって９月、10月とやるのか、それとも一遍に行うのか。

佐藤係長：随時である、その都度相談に乗って、そこから募集まではまちまちである。

鈴木委員：メニューを載せた時に応募がないということがあるのか、それとも多くの応募があるのか。

佐藤係長：ずっと載っているけれども来ないというのも多々ある。

鈴木委員：応募される年齢層は若年層が多いのか、それとも業種によって違ってくるのか。

佐藤係長：メインとしては20代、30代がほとんど、８割、９割である。

鈴木委員：複数になる場合もあるのか、あるいは一人でも断るパターンもあるのか。

佐藤係長：応募が来るとまずは書類選考を関係課、企業の社長で行い、その時点で落ちる場合もあるし、その後面接なので100％誰でも受け入れるということではない。

鈴木委員：事業所の社長も一緒に面接を行うのか。

佐藤係長：書類選考も面接も入って頂く。

鈴木委員：一番心配なのが立場が公務員的な立場であって労務管理、民間では勤務時間が長くなったりとかの場合の管理が難しいと思うが、その辺はどのようにクリアしているのかというのと、全体的にクリアできているのか。

佐藤係長：労務管理に関しては、まずは当然受け入れる企業とそこを含めて募集の段階で話をして理解をしていただいている、受け入れ側で労務管理を勘違いされているというトラブルはない。

鈴木委員：小さな商店だと入りづらいことがあって、やっていくうちにやめてしまう人もいるのだろうと推測はするがどうか。

佐藤係長：一概にはいえないけれども、２、３人の企業だから馴染めないという部分はそういうことではないと思う。

鈴木委員：事業所もしっかりと理解した上じゃないとできないから、その辺のマッチングはうまくいくパターンもあるということか。

佐藤係長：どうしてもそこを外してしまう場合があって、そういうのが途中退任という数字に表れているのもあるので、当然このコミュニケーションが完璧だとは思っていない。

鈴木委員：超過勤務の支払いは役場か。

佐藤係長：報酬も時間外もそうである。

委員長：隣町から見ていると、新得町は色々な新しい事業をやっていると感じているが、それの多くに地域おこし協力隊が入ってやっているという事なのか。

佐藤係長：課題解決の一つの戦力という部分はあると思う。

鈴木委員：１年以内に辞められた時は交付税措置されないが、払った部分は事業者負担となっているのかどうか。

佐藤係長：うちはしていない。

【移動　１１：２０】

【現地視察　１１：２５】

【休憩　１２：００】
【再開　１３：１５】

（２）まとめ

委員長：２つの町で感じたことをまとめていくので皆さんからの意見を願う。

只野委員：清水と違うのは、鹿追は公募で選んでいないという点、新得は完全に企業に地域おこし協力隊を派遣するということで、鹿追の公募の関係は知らなかったので、そういうやり方があるのだということは勉強になった。新得の企業に地域おこし協力隊を入れるというやり方を清水でもやってほしいと思うので、その辺は提言に入れていただきたいと思う。あと、どちらの町も定着率が清水と比べると高かったという点があったので、その点も数字出して上げていただきたいのと、サポート体制をもう少し充実させるという提言がほしい。それと、今回、課長と課長補佐が来てくれたが、議会で提言するけれども一緒にまとめというのはできないのだろうか。我々は提言や質問をするくらいで、やるのは完全に職員がやるかやらないかというとこなので、まとめも居ていただいたら向こうの論理もわかるだろうし、一緒になって作ったら、それこそやらなければならないというような感じにもなるので、ぜひ本当はいていただいたらいいと思う。議員は監督する役目だとモニター会議の意見であったが、時代は刻々と変わっていて、今回も我々が職員の研修に参加したりとか、視察研修に担当課が来るとか、立場が違うとかではなく時代は刻々と変わっているのだから、町が良くなる、町民が良くなるにはどうしたらいいかといいうことを考えて、今までどおりではいけないと思う。だから、今の論理を話すのではなくて新たにどうかということを考えながら、議論した中でだめだとなればわか

るけれども、立場が違うというので終わるのはちょっと変ではないかと思う。

田村委員：視察をして議論するまでは行政がいてもいいと思うけれども、委員会として出すので、それまでの経過は一緒に共有して、最終的にまとめる時は行政はいなくていいと思う。

只野委員：今の清水はとてもクリーンなやり方で、鹿追にしても新得にしても清水から見るとどうかというところがある。でも、やっているので、そういうところが各地で起きているし、その辺の考え方だと思う。何が本当にいいのかはそこそこで考えてやっているのではないか。新得もただ使っているだけではなく新しい何かということを言っているけれども、果たして本当にそうなのかというところはあるので、議員と行政が一緒になって考えるというのもなんともないと私は思う。

委員長：今回、町の課長と課長補佐も一緒にという提言を只野委員からされた時に、今までやったことがない事なので、どうしようかと相談があったけれども、研修に行くのはいい、一緒に見るのはいいだろうと、でも、役場からの見方と議員はまた違うのではないかと思うから、一緒になってまとめるというのは委員会としては違うのではないか思う。議員は議員としての見解を出すべきだと思う。

鈴木委員：調査の中でも担当課がついて来るというのは過去にもずっとあったので変わりはないが、ただ、まとめの時にはいないのは事実、我々は各課に対して調査報告するのではなくて、委員会の所管事務調査というのは理事者側に例えば新得のようにやっていくべきだとか、それを検証しながらどんどんやった方がいいというのが、職員に言うのではなくて執行側に言うというのが所管事務調査の在り方だと思う。只野委員が行っていることも当然わかるけれども、まとめは、これを受けて清水町はこうしようというのが委員会報告になるから、ここは履き違えてはいけないと、そのうえで、議員としては一般質問に含めたり質疑の中で予算を上げた方がいいとかいうのが我々が最大限できることだと思う。今回については地域おこし協力隊の現状は清水がうまく機能していなかったのは事実だから、そこはしっかり指摘して鹿追、新得の中身について、このようにやっているけれども、うちも率先してできるような体制づくりをしようというような提言をするしかないと思う。それを受けて理事者側がどうやってやるかというのは、これから我々がみていかなければならない事だと思う。

只野委員：一般質問は個々の部分を言うと思う、委員会が委員会全体で一つのことをまとめている。清水がきれいな感じで地域おこし協力隊をやっているが、隣町がこれだけ違うというのが衝撃を受けたと思う、それをやっているということはその過程は我々には理解できない過程があったと思う。

委員長：暫時休憩する。

【休憩　１３：２９】
【再開　１３：４５】

委員長：休憩前に引き続き再開する。

鈴木委員：まとめについては、鹿追町と新得町のやり方というのは両極端だし、うちの町は更に違う方向性だった、でも両方のいいところはあったし、鹿追町の方が比較的今の清水の現状に近いような気がしたが、今後、うちの町として定住移住に力を入れている部分も加味しながら考えていくと、新得町のやり方というのは非常に参考になると、どちらのいいところを書きながら、報告しながら清水もいいところをもらって進めるべきところは進めたらいいというような報告にしてほしいと思う。

深沼委員：鹿追と新得を見た中で、地域おこし協力隊で来た中で町に残る人数がどちらも多いというのが印象にあったので、清水ではなかなか地域おこし協力隊になっても残っている人が少ない、そこは何かという部分の中で、少しでもこれから清水町に残っていただけるような形を作るために、新得や鹿追の部分を見習った中で清水もやっていったらいいと思う。清水に残ってもらうということが一番の目的だと思うので、清水の良さを分かってもらってということ。

鈴木委員：鹿追も新得も比較的町民とのふれあいが多い、結局、その差なのかと思う。住民と接した中で、そこで人間関係できていったら心をつかんだようなもので、町民と触れ合う事のできる地域おこし協力隊をつくることによって、更に新得町のように定住率が高くなるというのはそういうことなのかと思っている。町民と触れ合う機会をつくる地域おこし協力隊の方が、より定住率も上がるのではないかという結論も一つ入れてほしいと思う。

田村委員：地域おこし協力隊の三方良しの取り組みというところで、地域おこし協力隊の才能や能力をうまく町に還元していくための、入口と出口のサポートの事を考えなければならないということを感じたのと、地域おこし協力隊の熱意と行動力を無駄にしないために、行政の中だけでおさめるのではなくて、町の中全体で、逆に行政がサポートするぐらいの立場で町全体が関われる仕組みを作った方がいいというのを報告書で載せたらいいと思っている。

只野委員：皆さんに聞きたいのだけれども、サポート体制ついて役場の方は協力隊の方と懇親をやっているという話で、その程度しか印象になかったけれども、私としてはもっとサポートをもっと色んなところでやっているのかという雰囲気もあって、聞き逃したのかなというのもあったので、皆さんが聞いた中でこんなサポートやっていたというのがあれば教えてほしい。

委員長：暫時休憩する。

【休憩　１３：５２】
【再開　１４：０７】

委員長：休憩前に引き続き再開する。今までの意見をまとめるということにする。まとめ方は委員長、副委員長でまとめて、皆さんに見てもらうということにしたい。

（３）その他

事務局長（大尾　智）：既にメールでご案内しているが、８月31日、９時半から昼頃まで作況調査になる。営農対策協議会でバスが用意されるのでよろしくお願いする。

委員長：それでは以上で総務産業常任委員会を終了する。

【終了　１４：１５】